

## 茨木市議会議員

# あびこ浩子

# ゆめ・みらい通信



連絡先：（あびこ浩子事務所）茨木市中穂積3丁目1-35

TEL&FAX 072-601-0569

（自宅）茨木市穂積台12-503

ウェブサイト：<http://www.hcn.zaq.ne.jp/abiko-h/>

### 東日本大震災追悼イベント三島 キャンドルナイト 総持寺公園



### 東日本大震災から1年・・・ 希望への一步を！

～私たちの変わらぬ思いを届け続けること～

#### 【あびこ浩子プロフィール】

- ◆玉櫛小・南中卒業／1980大阪府立千里高校卒業／1984関西大学文学部卒業／2008大阪市立大学大学院創造都市研究科共生社会研究分野修士課程修了、大学時代銭原キャンプ場でカウンセラーとして活動
- ◆1984高槻市立第7中学校教諭／1987茨木市立三島中学校へ転任1990退職／2000沢池幼稚園PTA会長／2002穂積小PTA会長／2006茨木市PTA協議会会長／2004NPO法人 Chacha-House 代表理事/2006穂積小校区青少年健全育成運動協議会会長／2006NPO法人子育て広場全国連絡協議会理事／2011穂積地区自主防災会会長
- ◆2008・4茨木市議会議員補欠選挙で初当選／2009・1茨木市議会議員選挙で2期目当選
- ◆茨木市議会議員／夫、長女（大4）次女（大1）・長男（高2）の5人家族

みなさま、いつもお世話になっております。あびこ浩子です。

東日本大震災から1年が経過しました。この1年、地震の被害から逃れて茨木市に避難されてこられた方たちとの交流や地元の方々との支援、追手門大学の先生や学生さんたちによる支援、また、大阪市立大学共生社会研究科により「新しい公共」事業補助金を得ての気仙沼支援の中で北摂つばさ高校と気仙沼高校生との交流などの支援や茨木市社会福祉協議会や茨木市役所を挙げての義捐金、支援物資の募集活動、思い返せばたくさんの支援が繰り広げられてきました。みなさんの温かい心を日々感じた1年でもありました。

また、原発の怖さを思い知らされた1年でもありました。節電対応をみなさんで頑張った1年でもありました。まだまだ今年の夏の節電に向けて協力お願の報道も続いています。これまでのように好きなだけ電気を使うのではない、限りある電気を大切に使う生活の知恵を考えさせられ実行した1年でもありました。

茨木市東太田の東芝跡地に建設予定の「スマートコミュニティ構想」では、街をあげてエネルギー循環をコントロールしていく新しい技術が実用化されようとしています。震災後から専門家の間で言われていたスマートコミュニティ構想がこれまで、国の研究でしかなかったモデル事業だったのですが、茨木市でも実現されるということに、新しいエネルギー循環の在り方を身近に考える機会となりました。

子育て支援の様々な研究会もたくさん東北で開催されました。テーマとして災害支援をメインに据え、いっしょに考える機会としたことや、東北への観光支援も兼ねていました。

保育所・園で一人も子どもたちの犠牲者を出さなかった実践の話を聞き、危機管理の在り方を改めて考えさせられました。今後私たちが生かすべき被災地の生の声を胸に災害時の対応をいっしょに考えたいと思います。

## 2012年3月定例議会報告



阪急南茨木駅前「サンチャイルド」  
除幕式に参加しました。



### 地域福祉ネットワークの検証について～PART3～

#### (茨木市総合福祉計画策定にあたって)

これまで引き続き質問をしてきた「地域福祉ネットワーク」の再構築について、この1年の取り組みから、検証結果についてお聞きしました。

実際には9月議会の民生常任委員会において「地域福祉策定懇談会においても検証の議論を行う」とのご答弁をいただいております。策定懇談会での内容をお聞きしました。

次年度はモデル事業で実施した「沢池・西地区」にプラスして5校区においても本格的に「健康福祉ネットワーク」を展開するとのことで約500万円の予算が計上されています。

7月より「地域の身近な相談窓口」としてモデル的に沢池公民館、西公民館で「相談窓口」が設置されました。民生委員さんが窓口で相談にのっていただけるようになりました。実際には、市職員と一緒に窓口につき相談体制を支えてこられまし

た。市が直営で相談を受ける体制として、生活保護のケースワーカーさんや健康福祉部で地域担当を決められて相談をまずは福祉政策課で受け、その後、CSWさんに指示するという体制でやってこられました。民生委員さんの相談力がUPして、地域での相談体制が強化できたとのことでした。

身近な場所で相談できることはとてもありがたいことですが、計画の中に「これまで健康福祉ネットワークとしてCSWを中心に見守り支援等を展開してきた」との記載があり発見と相談が機能していたにも関わらず、この1年、市職員と一緒に民生委員さんに相談窓口担当をしていただけてきました。次年度7地区になることで職員さんの人件費の増大やケースワーカーの方の過重労働を心配してまいります。是非十分に相談対応できるよう市職員の増員配置により民生委員さんをバックアップしていただけるようお願いしました。

#### 〈あびこ浩子の実感〉

- 今こそ、地域力の出番だと実感します。
- どんなことがあっても、みんなで知恵と力を出し合える、そんな「まち」と良いな。
- 身近なまちで防災の街づくりには地域での繋がりが欠かせません。

第13号

## 第2次茨木市男女共同参画計画について

現在茨木市では「第2次茨木市男女共同参画計画」を策定中です。

この計画には国の第3次男女共同参画計画での変更点について、取り入れながら策定される予定であるとの以前の私の質問へのご答弁をいただいていたので、改めて内容について、また考え方についてお聞きしました。

国の第3次男女共同参画計画には、ニューヨーク国連本部での日本報告に対する勧告に基づいて改定されてきた内容が取り込まれています。その中で「複合差別」の視点について考え方を質問しました。女性であることの生き難さに加えて、高齢者、障がい者・外国人・同和問題などの困難を抱える方々についての取り組みが、茨木市の計

画には詳しく表記はないが、きちんと取り組むとのことご答弁でした。

男女共生センター・ローズWAMは現在男性も多く利用され、地域の人権拠点として機能しています。ローズWAMができる前、クリエイトセンター内に女性センターが設置されていた頃に子連れで「女性フェスタ実行委員」をさせていただいていました。当時女性しかいなかった実行委員に現在では男性も参加されており、高齢化と共に地域で活躍する男性も増え、その活動拠点としてローズWAMを利用してもらえることにとてもうれしく感じています。男女の別なく共に活動できる仲間として人権課題に取り組み、暮らしやすい茨木市つくりになることを願っています。



「街デイほづみ1周年記念イベント」石田英司さんたちの歌声に、皆さん一緒に歌いながら楽しい時間をすごしま

## 学校におけるハンセン病問題の取り組みについて ～次年度中学校公民教科書に記載されることで～

平成24年度から採用されるすべての中学校公民教科書に「ハンセン病問題」が取り上げられることとなりました。

そこで私は、この課題についてこれまでどのような取り組みが学校でされてきたのか、そして今後の取り組みをどのように考えておられるのかをお聞きしました。

ハンセン病は国による隔離政策により、長年「怖い病」として忌み嫌われてきました。患者は療養所に隔離され、死ぬまで出られなかったのです。患者の家族も一緒に差別されることから療養所に入所と同時に名前を変え、死んだこととされた方が多かったのです。実際には薬により完治することが分かってからも隔離政策は続けられてきました。その結果、故郷に帰りたくても帰れない

方々、そして今も残る差別の現実には患者であったことを語れない方々。そのような現実を正しく次世代を担う子どもたちに伝え、社会による差別の構造を学ぶことで、みなさんがいきいきと暮らせる社会を作ってほしいとの思いがあります。これまで学校では厚生労働省が配布する中学1年生への「ハンセン病のむこう側」というパンフレットを配布してきたとのことでした。できるなら単に配布するだけでなく、内容に踏み込めるように、そして先生方や子どもたちに当事者の生の声を聴く機会を持てるようにしてほしいとお願いしました。出会って話して・・・そこから本当の理解が始まると、当事者のみなさんと活動させていただきながらいつも私は感じています。

